

## (7) かき

| 時期                 | 対象病害虫                               | 防除法                                     | 注意事項   |
|--------------------|-------------------------------------|---|--|
| 12月～2月<br>(休眠期)    | 黒星病<br>落葉病<br>カキノヘタムシガ<br>コナカイガラムシ類 | ・落葉及びバンド処理<br>・粗皮削り                     | ○ バンドをはずし、落葉と共に埋没する。<br>○ 落葉病の多発園では、落葉処理を徹底して行う。<br>○ 枝幹害虫類の少ない場合は、粗皮削りはこの時期でよい。<br>○ マイマイガの卵塊は除去する。 |
|                    | カイガラムシ                              | ・マシン油乳剤(95%)                            | ○ カイガラムシ類の少ない園では省いてもよい。<br>○ マシン油乳剤(95%)には、95マシン、スケルシン95、トモノール、マシン油乳剤95、機械油乳剤95、高度マシン95がある。          |
| 3月中旬～下旬<br>(発芽直前)  | 黒星病<br>うどんこ病                        | ・石灰硫黄合剤                                 |  |
| 4月下旬<br>(展葉期)      | うどんこ病                               | ・水和硫黄剤                                  | ○ 水和硫黄剤には、コロナフロアブル、クムラス、イオウフロアブル、サルファーゾルがある。   |
|                    | ハマキムシ類<br>フジコナカイガラムシ                | ・スミチオン乳剤                                | ○ ハマキムシ類の防除には、ヨーバルフロアブルを散布する。  |
|                    | チャノキイロアザミウマ                         | ・ベストガード水溶剤                              |  |
| 5月中旬<br>(開花直前)     | 黒星病<br>落葉病<br>炭疽病                   | ・ジマンダイセン水和剤                             | ○ マイマイガなどが発生した園では、トクチオン乳剤を使用する。  |
|                    | アザミウマ類<br>カイガラムシ類                   | ・モスピラン顆粒水溶剤                             |  |
|                    | ヒメコスカシバ                             | ・スカシバコンLの設置                             | ○ 共通防除の章の性フェロモン剤による害虫防除の項を参照する。  |
| 6月上旬～中旬<br>(生理落花期) | 落葉病<br>炭疽病<br>うどんこ病                 | ・ベルコート水和剤<br>又はチオノックフロアブル               | ○ 落葉病は連続降雨後に多発するので、この時期の防除を徹底する。<br>○ うどんこ病の多い園では水和硫黄剤(イオウフロアブル、サルファーゾル)を散布する。                       |
|                    | カキノヘタムシガ                            | ・サムコルフロアブル10<br>又はコテツフロアブル<br>又はノーモルト乳剤 | ○ ベルコートは西村早生には葉害(葉の葉斑)を生じるので使用せず、チオノックフロアブルを用いる。   |
| 6月下旬<br>(幼果期)      | 落葉病<br>炭疽病<br>うどんこ病                 | ・ベルコート水和剤<br>又はスクレアフロアブル                | ○ ベルコートは西村早生には葉害を生じるので使用せず、ラビライト水和剤を用いる。<br>○ カキノキマダラメイガの防除のため、高接部分や枝の分岐部にも十分散布する。                   |
|                    | カキノキマダラメイガ<br>チャノキイロアザミウマ           | ・パダンSG水溶剤                               | ○ フジコナカイガラムシの多い園では、アドマイヤー顆粒水和剤を使用する。   |
| 7月上旬～下旬            | 炭疽病<br>落葉病<br>うどんこ病                 | ・有機銅水和剤(フロアブル)<br>又はインダーフロアブル           | ○ かきに登録のある有機銅水和剤には「キノンドーフロアブル」、「ドクリンフロアブル」がある。<br>○ 炭疽病、落葉病の防除にオーソサイド水和剤80を使用してもよい。                  |
|                    | カキノヘタムシガ<br>チャノキイロアザミウマ             | ・パダンSG水溶剤<br>又はダントツ水溶剤                  | ○ カキノソガ、ミノムシが多い場合はスミチオン乳剤を使用する。早生品種では収穫前使用日数に注意する。   |
| 8月中旬               | カキノヘタムシガ                            | ・バリアード顆粒水和剤                             |  |

| 時期                | 対象病害虫                  | 防除法   | 注意事項   |
|-------------------|------------------------|---|--|
| 8月下旬<br>～<br>9月上旬 | うどんこ病<br>落葉病<br>炭疽病    | ・トップジンM水和剤<br>又は有機銅水和剤(フロアブル)<br>又はファンタジスタ顆粒水和剤 | ○ カメムシ類が多い場合はテルスターフロアブル又はアーデント水和剤又はスカウトフロアブルを散布する。                   |
| 9月上旬<br>～中旬       | カキノヘタムシガ<br>フジコナカイガラムシ | ・バンド誘殺開始  | ○ カキノヘタムシガの被害果は埋没する。   |
| 11月上旬<br>(落葉直後)   | カキノキマダラメイガ<br>ヒメコスカシバ  | ・粗皮削り<br>・枝幹保護剤塗布                               | ○ 伊豆では枝幹害虫類による被害が多いので、落葉直後に粗皮を削り幼虫を捕殺する。その後、枝幹保護剤(水溶性ペイントなど)を塗布しておく。 |

注)成園 10a 当たりの散布量は樹の大きさに応じ 300～500ℓとする。

農薬登録情報（農薬名順）

- [殺菌剤](#)
- [殺虫剤](#)
- [展着剤及びフェロモン剤](#)

農薬登録情報（RACコード順）

- [殺菌剤](#)
- [殺虫剤](#)
- [展着剤及びフェロモン剤](#)